

防災警察常任委員会委員会調査報告書

令和7年9月3日（水）に、海上自衛隊厚木航空基地において、次の事件について調査を実施したところ、その概要は別添のとおりでした。

【調査事件】

- ・ 災害対策及び消防に関する事項について

令和8年2月13日

神奈川県議会議長 長 田 進 治 様

防災警察常任委員会委員長 綱 嶋 洋 一

1 調査の概要

(1) 調査日程

令和7年9月3日（水）

(2) 調査箇所

海上自衛隊厚木航空基地（綾瀬市厚木航空基地）

(3) 出席委員（計12名）

綱嶋洋一委員長、栄居学副委員長

大村悠、加藤元弥、嶋村ただし、土井りゅうすけ、原聡祐、望月聖子、たきた孝徳、京島けいこ、鈴木ひでし、さとう知一の各委員

(4) 随行者

慶野主事（議会局議事課）、富所副主幹（くらし安全防災局総務室）、尾崎警部（警察本部総務部総務課）

(5) 行程

県庁～海上自衛隊厚木航空基地～県庁

2 海上自衛隊厚木航空基地

(1) 調査目的

海上自衛隊厚木航空基地は、海上自衛隊航空部隊の総司令部である航空集団司令部をはじめ、航空集団直轄の第4航空群、第51航空隊、第61航空隊及び航空管制隊が所在し、航空機のシステム管理に欠かせない航空プログラム開発隊等の重要な部隊が集中している。

そのような中、第4航空群では、自然災害や海難事故等の発生時に、被災者や遭難した人・船舶・航空機の捜索・救助等の活動を行っており、平成25年6月海上保安庁第2管区海上保安本部からの要請により、厚木航空基地の東約1,300kmで遭難したヨットの乗員2名に対する洋上救難が行われ、第4航空群では、P-3C哨戒機により遭難者の位置の確認、遭難者の状況の確認、救助のためのUS-2の誘導を実施した。

そこで、海上自衛隊厚木航空基地を訪問し、災害派遣における取組や装備等を調査することにより、本県の災害時における災害派遣連携等に係る今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 調査先出席者

ア 海上自衛隊厚木航空基地出席者

第4航空群司令、第4航空群司令部首席幕僚、第4航空群広報室長ほか

イ 神奈川県くらし安全防災局出席者

長澤管理担当課長

(3) 委員長挨拶



(4) 海上自衛隊厚木航空基地 第4航空群司令挨拶

(5) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

- ア 海上自衛隊航空部隊の概要
- イ 第4航空群の編成
- ウ 活動状況（災害派遣状況確認）
- エ 活動状況（災害派遣急患輸送）
- オ 活動状況（地元との交流）
- カ 活動状況（行幸啓）
- キ 活動状況（日米合同慰霊顕彰式）

(6) 質疑応答

質 疑 災害対応、災害派遣要請において、県と連携する中での課題であったり、県行政に求めたり、改善すべきことはあるか。

応 答 県に対しては特にはない。





(7) 現地視察

ア P-1 哨戒機の概要説明



イ P-1 哨戒機に関する質疑応答

質 疑 厚木と鹿屋に配備されているP-1哨戒機は東シナ海の警戒区域を監視しているとのことであるが、どのようにすみ分けがされているのか。

応 答 端的にいうと、厚木と鹿屋は時間帯で分けている。厚木の場合は厚木から発進し、厚木に戻ってこないといけないため、進出できる距離が違うことから、場所によって進出できるところが異なる。そのため、厚木と鹿屋は警戒区域が重なるところが一部あるが、日中と夜間で監視する時間帯を分けている。

質 疑 P-3哨戒機は当時100機あったが、今、P-3哨戒機はどのくらい残っているのか。

応 答 今は三分の一ぐらいしか残っていない。

質 疑 P-3C哨戒機とP-1哨戒機の性能の違いは何か。

応 答 基本的に探知センサーのベースで比べると1.3から1.5倍探知性能が上がっている。機体性能でいうと、エンジンがプロペラからターボエンジンに代

わっているため、高高度での機体性能や運行性能はP-1哨戒機のほうが高いが、低高度で移動する場合はP-3C哨戒機の方が効率的に運行でき燃費がよい。例えるなら、P-1哨戒機がオートマ車、P-3C哨戒機がマニュアル車のようなイメージで、また、積める燃料の量もP-1哨戒機のほうが多くなっているため、P-1哨戒機のほうが1.3から1.5倍ほど全体的に性能が高い。

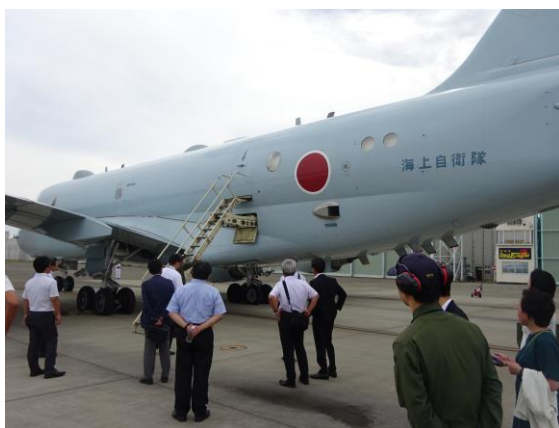
質 疑 日本海域に潜水艦が入ってきて、探知して見つけた場合、その後はどうなるのか。

応 答 領域次第ではあるが、機微な領域、領海や接続水域では、連続追尾して情報収集し、領域に入っていないか見ながら、オペレーションを監視する。領海に入ってきた場合は、こちらから警告する。

質 疑 潜水艦が入ってきて、大変厳しい状態というのは年に何回くらいあるのかと、潜水艦自体が音が出ないものがあると私が勉強した中で聞いたことがあるが、どのくらいまで技術が追いついているのかの2点をお聞きしたい。

応 答 一つ目の質問は年に何回かという頻繁にあるわけではないが、領海に入るのは年に1回あるかないか程度。二つ目の質問は当時追いかけていた潜水艦よりも感覚では短くなった程度である。

ウ P-1哨戒機の見学



(8) 副委員長挨拶



(9) 調査結果

- 海上自衛隊厚木航空基地は、海上自衛隊航空部隊の総司令部である航空集団司令部をはじめ、航空集団直轄の第4航空群、第51航空隊、第61航空隊及び航空管制隊が所在し、また、航空プログラム開発隊等の重要な部隊が集中している航空基地であった。
- 第4航空群は、海上防衛を担う第一線の航空部隊として、日本周辺海域の防衛及び監視活動に従事し、また、災害派遣や航空救難など、国民の生命・財産を守るための活動についても行っていた。
- 具体の災害派遣等の取組として、地震発生時における周辺状況（西は和歌山から東は仙台辺りまで）の偵察及び情報収集を行ったり、また、父島や母島等の離島で急患が出た場合においては、急患輸送を行ったりするとのことであった。さらに、遠洋で漁船が転覆した際など、要請があれば偵察等実施するとのことであった。
- P-1哨戒機は、P-3C哨戒機の後継機として、より向上した探知性能や機体性能を活かしながら、日本周辺海域の監視活動等を行っているとのことであった。

これら海上自衛隊厚木航空基地の災害派遣の取組等を調査したことで、本県の災害時における災害派遣等の県と海上自衛隊との連携等について、今後の委員会審査の参考となった。